

## 第6回 定期 総会 報告

(2010年10月30日16時30分～18時)

会 員 総 数：98名 (9月30日現在)

出 席 者 数：14名

委任状提出者数：22名

司会：事務局 山岡直子

規約13条(会員五分之一にて総会成立)に基づき、本総会は成立

### 1. 開会の辞 (南塚信吾)

このアンコールやまなみファンドは、この数年間充実した素晴らしい活動をつづけてきていると思います。この活動をもっといろいろなところでアピールしていったらいいのではないのでしょうか。例えば、子供たちの絵の展覧会をすとか。

### 2. 会長挨拶 (多賀正夫)

雨の天気ですが、多くのみなさんにご出席いただきありがとうございます。また日頃のAYFへのお世話、ご協力についても感謝いたします。

「アンコールやまなみファンド」設立されて5年になります。なにを、どのようにしたらいいのか、というのがスタートでしたが子供たちへの教育支援、毎年の「やまなみ塾」への訪問など、われわれ自身では評価できる活動をしてきたのではないかと思います。

ただ、これからの5年をどうするのか、その後の活動についてはどうなるのか、という問題が出てまいりました。今日はそのことを中心にいろいろ意見をいただければと思います。

9月、富山で「講演と夕食の会」を開催しました。中川教授の15年に及ぶJSAでの活動、AYF活動開始から5年という機会をとらえ、できるだけ多くの人に活動内容を知ってもらおうと開催したものです。

クラウ村の子どもたちが描いた絵がみなさんの席にまわっています。たとえばこの絵を展覧会の形で、都内や富山でみてもらうことも今後の活動継続へのヒントではないかと思っています。

活動内容を理解し、継続的に活動協力をしていただける会員を募り、できるだけ長く、自分たちの手で活動を続けていきたいと思っています。

忌憚のないご意見をお願いして挨拶とします。

### 3. 議事

(1) 2009 年度活動報告 (金岡 隆) . . . . . 別紙参照

- ・AYF の直接の活動ではないが、現地で活動している日本の元美術の先生の指導により、やまなみ塾の子供たちが描いたすばらしい絵が JST のホームページに掲載されている。
- ・『富山と東京』9月号～11月号と3回にわけて、富山県学生寮の山崎雄一さんが書いた第五回ツアーの記録が掲載された。

(2) 2009 年度会計報告 (山岡直子) . . . . . 別紙参照

- ・会計監査 (稲垣宏之) から承認の報告があった
- ・09 年度に計上していた図書費について  
図書室もできたし、子供たちのために図書を備えるため図書購入予算をたてた。しかし、どんな本がいいのか、現地で出版されている図書事情も問い合わせで購入しようと思いつながら、実行できなかった。事務局の怠慢でした。次年度は是非実現したい。日本語の本でも簡単なもの (絵で理解できるようなもので、それに英語やクメール語の訳がつけば、なおよい) もいいという意見がでた。

(3) 2010 年度活動案 (金岡 隆) . . . . . 別紙参照

(4) 2010 年度予算案 (山岡直子) . . . . . 別紙参照

- ・教材費 30US\$ の計上について  
英語教師のさらなるスキルアップのための教材。以前 2、3 の会員の方より、英語による英語教材の提供の申し出がありましたが、現状では、クメール語の教材が必要という要望がありました。次の段階で英語の教材も活用してもらうことにしました。

以上、承認されました。

(5) AYF の今後について

① 活動、運営について

- ・これからの5年間どのように活動していくかについて  
委任状に添えられた意見の中に、会員の高齢化が進んでいるので、5年ではなくもう少し短いスパンで活動を区切ってはどうかという提案があった。  
この意見に関して  
昨年の総会では、もう一期継続するということで一致しているし (昨年総会報告参照※)、中川さんの修復事業が第4フェーズとしてあと5年続くということでもあるので、今年から5年間もう一期継続することを再確認。ただし、会員が高齢化していることは確かなので、無理なくできるような内容を考えながら運営していくことになった。
- ・委任状に添えられた意見の中に、英語の先生を日本へホームステイとして招待するのはどうかという提案があった。

受け入れる家庭があればOKであるが、現地の状況が可能かどうかきいてみる必要がある。

- ・外部へのアピールをもっとという意見：塾の子供たちの絵をなるべく多くの人の目につくところに展示して（東京と富山）、会の活動のアピールをすることもひとつの方法である。東京に関しては、さしあたり、場所を探し検討することとなった。

② 会員の増大について

- ・会の活動のアピールということと結びつくが、多くの機会を利用して会員を募っていく。ただし、この会の趣旨、これまでの活動に真に賛同してくれる意志を確かめていくことが必要。

③ 会員相互の交流について

- ・次回ツアーの準備会を兼ねて、カンボジアの歴史や文化の理解を深めながら交流を行っていくのが無理のないやり方ではないか。

④ 両国間の文化交流をどうするか。

- ・ツアーの実施を継続していく中で、工夫を凝らしていけばよい。
- ・英語の先生のホームステイ受け入れを検討する。(①の内容と重複)

⑤ その他

- ・議事3の(1) 現地の様子に関して中川さんから  
来年8月から第4フェーズに入る。仕事の内容は、大きくは二つになる。  
ひとつは、これまでどおり、カンボジア人が自らの手で自立して修復事業を続けていくためのアシスト。もう一つは、考古学教室の開催。これは対象が大人の教室と子供（小・中学生）の教室の二本立てで行う。因みに、子供むけの考古学教室はすでに行われている。（毎回、さまざまな学校から60人位の生徒が集まってきている。もちろんクラウ村の子供たちも何回か参加している。）

(6) 第6回「やまなみ塾」訪問と遺跡見学ツアーについて

実施時期、次回は11月中旬頃となった。

決定にあたり考えたこと

- ・来年の1～3月に実施するには、準備期間が短すぎる
- ・次回は暑い時期は避けたい
- ・今までと異なる季節もいいのではないか。11月は雨期の終わりで気候的には良好だとのこと。

以上により、次回ツアー実施は2011年度となる。

4. 閉会の辞（野村裕子）

この度思いがけず、会社よりこのAYFの活動に参加していることに対して、表彰を

受けました。社内において、社員が行っている社外活動の発表会があり、私の支部の担当者が私の参加している AYF の活動に感激してこれを取りあげ報告してくれました。実は、今回のツアーのお土産をあげていたのですけど……。そして、次回ツアーで訪問するときには、社内でも支援物資など応援しましょうという雰囲気が出た。このようにどんなことからこの会の活動が知られるようになるかわかりませんが、いろんな機会をとらえて、少しでも多くの人に知ってもらって、これからも地道に活動を続けていけたらと思います。

台風接近という悪天候の中、お集まりいただきありがとうございました。

以上

2,010年11月10日

文責 AYF 事務局 山岡直子

※ 「今ようやく軌道にのってきたところであり、また、この活動は長く続けていくところに意味があるので、もう一期継続するという事で一致。」

(第5回定期総会報告より)